おいしい時間

2022年（令和4年）7月8日（金曜日）

安城のNPO 子育て経験者中心に交流企画

集まれお母さん 息抜きしよう

子どもを遊ばせながらリラックスした時間を過ごす母親ら（松岡さん提供）＝いずれも安城市朝日町で

孤立感や悩み解消、手作りランチも用意

高齢者や子育て世代の支援に取り組む安城市のNPO法人「ing（イング）」が、母親たちが立ち寄って悩みを打ち明けられる場「おいしいじかん」を企画した。月に一度、くつろいだ時間を過ごすことで「心にゆとりを持って育児をしてほしい」と子育て経験者を中心に準備した。次回は二十日午前十時～正午に予定している。（四方さつき）

六月中旬、安城市朝日町の「ingハウスここから」に、四人の母親と二カ月の乳児から三歳までの子ども計五人が集まった。子育てや保育士の経験がある五人のスタッフが、子どもたちと遊び、母親の声に耳を傾けた。

きょうだいげんかへの対処法や幼稚園選び、小児科や遊び場の情報―。気兼ねなく話した後は、スタッフが用意したカレーを皆で食べ、ほっこりとした時間を過ごしてもらった。

スタッフの一人、須田恵利華さん（三六）＝安城市大山町＝は「コロナ禍もあって、これまでは当たり前だった、お母さん同士の交流もできなくなっている。『初めて人とじっくり話せた』『息抜きになった』と喜んでもらえてよかった」と話す。

次の開催計画を練る（左から）山上さん、須田さん、松岡さん

市内に引っ越し、知り合いもおらず、慣れない子育てに追われて孤立感を深める人もいる。須田さんも長男（二）が二歳の時に、関東地方から市内に引っ越してきた。「私も、多くの人に助けてもらって育児をしてきた。次は私の番」と胸を張る。

「お母さんがひと息付ける場を提供したい」と、保育士経験のある山上美保さん（五一）＝安城市住吉町＝は言う。「緊張や遠慮しがちなお母さんもいる。実家に戻ったような落ち着ける空間をつくるのが、私たちの役割」と、手作りの仕掛け絵本で場を和ませるなど、奮闘する。

おいしいじかんは毎月第三水曜日に開催。定員四組で、参加費は大人五百円、一歳以上の子どもは百円。毎回昼食にスタッフが手作りカレーなどを用意している。

ing代表の松岡万里子さんは「お母さんの幸せが子どもの幸せにつながる。苦しい思いを抱えないよう、必要な人に支援を届けたい」と話している。問ing＝090（1826）7289

中部乳幼児学級

芋ほり